

浜松 インド人材に選ばれるまちに

インドの国民的スポーツ「クリケット」を浜松市で普及させようと、スポーツクラブを運営する一般社団法人「グロー・アップ・アカデミー」(同市中央区)など民間有志が体験会などの取り組みをスタートさせた。スズキなど同国進出企業とのつながりから市内のインド人は増加傾向にあり、今後も拡大することが予想される中、クリケットを通じてインド人が暮らしやすい環境の整備や多文化共生社会の促進を目指す。

民間有志が体験会



ビネイ・クマールさん(左)の指導を受けてクリケットを体験する園児
＝4月下旬、浜松市浜名区の保育園「れんりの子」

クリケット普及 生活環境豊かに

国民的スポーツ

有志らが4月25日に保育園「れんりの子」(浜名区、富田知可子園長)で開催した初のクリケット体験会。市内で料理店を経営する同国出身のビネイ・クマールさん(54)＝中央区＝や元U-19(19歳以下)日本代表の八巻毅さん(39)＝同＝らが年中・年長児約20人に基本を指導した。

面の広い専用バットでボールを打ち、芝生の上を駆け回る園児。「打つのは難しいけど、当たると楽しい」と声を響かせる。事前に本を借りてインドの国旗やあいさつなども学び、クマールさんへの質問コーナーでは盛んに手を挙げた。富田園長は「園児がインドの文化を知るきっかけになった」と実感を込める。

市国際課によると、4月1日現在の市内在住インド人は675人と、3年前から3・5倍に増加した。市は企業の人手不足対策や産業振興に向けて同国から高度人材を獲得するため、イン

クマールさんによると、クリケットは「インド人の99・9%が好き」で、学校や休日にも楽しむことが「日常」。同法人の八巻翔哉代表理事(30)＝同＝は「インド人の生活の一部にクリケットがある。インド人が浜松で気軽にクリケットを楽しめ、住みやすい環境をつくりたい」と語る。

今後は小中学校でも体験会を開催し、競技の発信だけでなく、インド文化について紹介する時間も設ける計画だ。「市民にもインドについて知ってもらうことが重要。相互理解を進め、共生社会の実現につなげたい」と八巻代表理事。将来的には多国籍の市民が参加する大会の開催も視野に入れ、クリケット熱の拡大を図る。

(浜松総局・宮崎浩二)

Q クリケット 英国発祥で野球の原型と言われる。日本の競技人口は約5千人。ファン数や放映権料などから、世界ではサッカーの次に規模が大きいスポーツとされる。2026年の愛知・名古屋アジア大会、28年のロサンゼルス五輪の競技に追加された。県内では富士市の富士川河川敷に専用施設がある。

「家族へ

千葉・殺

千葉市若葉区のくの高橋八生さんが害された事件で、逮捕された中学生(15)が「家族にトレスが限界だ」と趣旨の供述をしたと17日、捜査機関で分かった。18日で1週間。高知人は「元気を本当に腹立たしい捜査関係者によ年(15)はこれまでに1行きたかった」「弱い人を狙った」と述べている。

保育士殺害容疑宮城の男を宮城県塩浜市の育士行仕由佳さん(41)＝同＝が台市太白区＝の「つかった事件で、日、刃物で胸を刺して殺害したとして疑いで知人の無真容疑者(21)＝岩崎4丁目＝を再逮捕。「黙秘します」とる。